

親のこと不安

要支援、要介護以前でも、
初めて見る親の変化にとまどう

要支援、要介護ではなく、自立した生活を送っているが、高齢のため心配が増えてきている親を持つ、46歳以上の女性271人に聞いた。

親の身体・健康で知っておきたいことは、「運動機能の衰え対策」や「認知症発症など健康変化の発見の仕方」についてが6割超。

暮らし・生活で知っておきたいことは、「高齢者特有の行動や思考回路について」が半数近い。

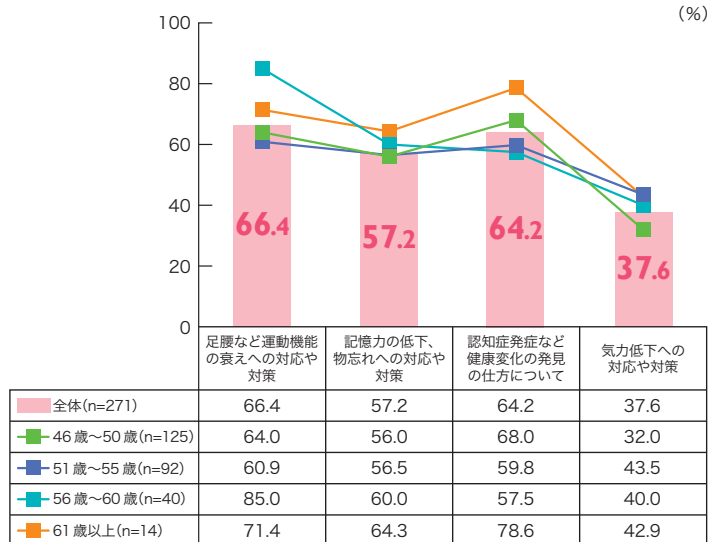
61歳以上の回答はn数が少ないため参考値だが、食生活、コミュニケーションの取り方、高齢者特有の行動や思考回路のポイントが高い。60代の親で80代後半以上が多くなるためだろう。

13Pのインタビューにもあるが、自立生活を送っているとはいえ、物忘れが多くなる、被害妄想が強くなる、頑固になる、気力が衰えるなど、高齢者特有の行動や思考回路にとまどい、初めて見る親の変化に苦労する例は多い。

老親の現状と介護度とのギャップに戸惑う、50代の実態がある。

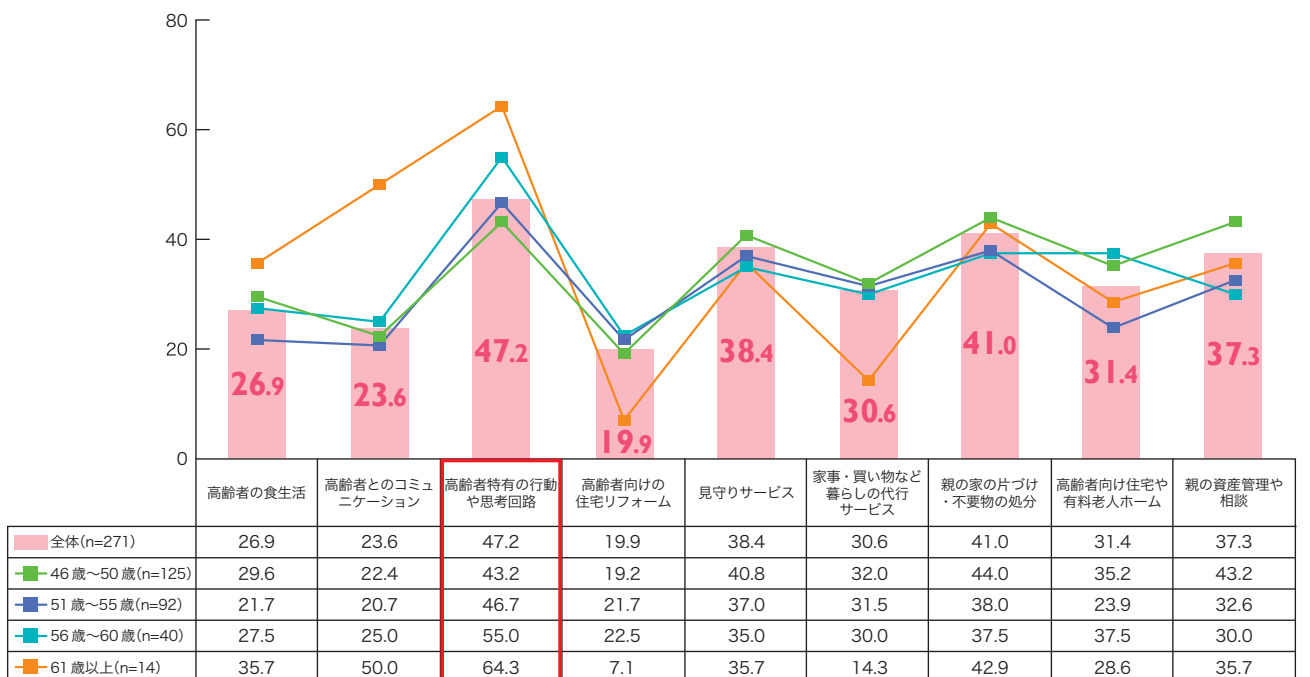
親の身体・健康

知識として知っておきたいこと



親の暮らし・生活

知識として知っておきたいこと



【調査概要】

調査期間 2016年11/2～11/7

調査対象 読者女性組織「リビングパートナー」へのWEB調査

集計数 46歳～55歳=217、56歳～65歳=54

※各データは少数点以下第2位を四捨五入したため、合計が100%にならないことがある

資産や相続の相談ができているのは、50代後半でも 3 分の 1

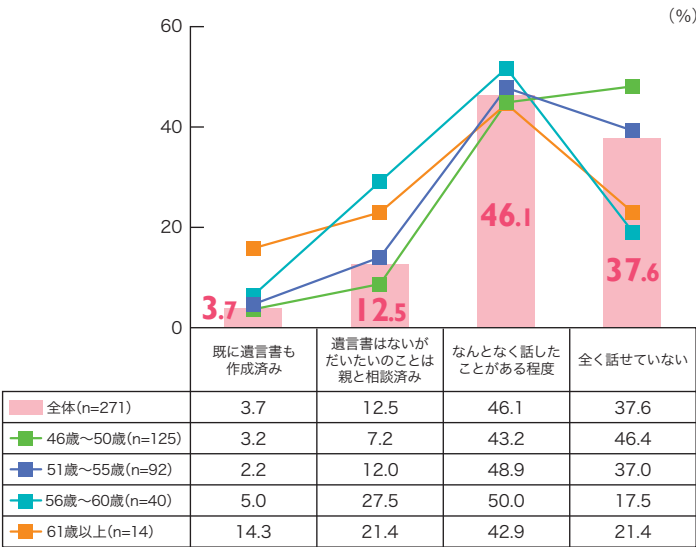
資産や相続について、「遺言書を作成済み」「相談済み」は16.2%とまり。50代後半でも32.5%と3分の1にも満たない。

きちんと話ができていない理由は、「自分がよく分からないので話せない」が42.7%と、親への遠慮がある。

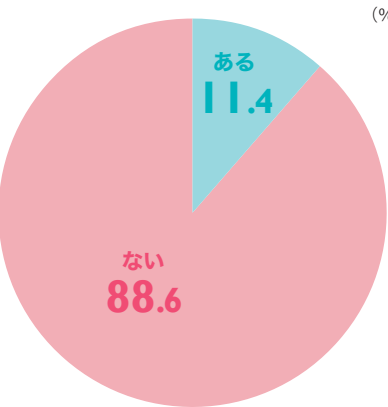
エンディングノートを利用する高齢者が多いといわれているが、親の方から話す、子どもから話をもちかける、双方へコミュニケーションの取り方のアドバイスが必要ではないだろうか。

親のことを専門機関に相談したことがあるのは11.4%と圧倒的に少ない。親が自立生活ができなくなったら「介護ヘルパーに来てもらう」(33.9%) ことになり、介護サービスの利用で、ケアマネージャーに相談するのが第一歩。要介護以前に相談ができる窓口がないのが実状。

資産や相続について親と話したことはあるか

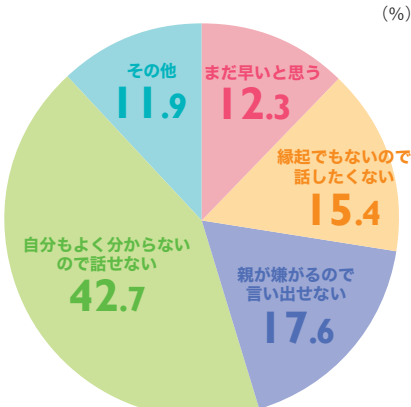


親の身体・健康、生活・暮らしなどについて、専門機関に相談したことはありますか？

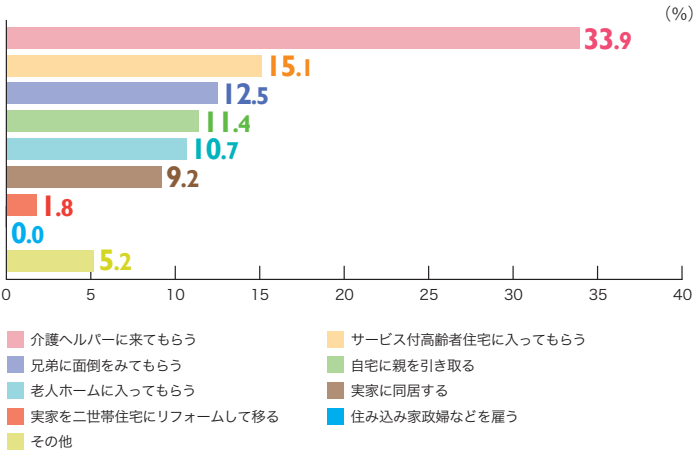


	ある	ない
全体(n=271)	11.4%	88.6%
46歳～50歳(n=125)	7.2%	92.8%
51歳～55歳(n=92)	10.9%	89.1%
56歳～60歳(n=40)	22.5%	77.5%
61歳以上(n=14)	21.4%	78.6%

資産や相続について「なんとなく話したことがある程度」「全く話せていない」理由



親が自立生活ができないと判断したら、あなたはどのように思いますか？



3人の主婦ヘインタビュー 「親の高齢化とどう向き合っていますか？」

親というより、“老人”への対応方法を教えてほしい

心配して様子を見に行くと「何しに来た」「勝手に入ってこないで」などキツイことを言われて、**親より先に自分が壊れそうな気持ちに…**。とにかく本人の話をよく聞くようにしているけど、親が壊れていくのを見るのは悲しい。**友達や職場の同僚にもあまり深いことは話せない**ので、**精神的にキツイことも多い**。

母は足腰はしっかりしていて身体は元気だけど、気力がない。記憶もまだら。書類やお金の管理ができなくなってきたので、姉と分担してやるようになった。**認知症が進行しはじめていると病院で診断されたが、介護認定では本人がしっかり対応してしまうため、認定されない**。

デイサービスの体験に行ったが、自分は周りの老人と違ってポケていないというプライドがあって嫌がる。**1カ所に集められて好きでもないことをやるのではなく、本人がやりたいことをやらせてくれるサービスがあればいいのに**。

明らかに変なことを言い出すので、つい、全否定してしまっ、余計に依怙地になってしまうことがある。どう話したら分かってくれるのか…年寄りだから仕方ないとは思うけど、**親というより、“老人”への対応方法が知りたい**。

行政からの重要書類が来ても、億劫で見ない、見ても理解できない。自身では手続きできない老人はいっぱいいると思う。家族が近くにいればいいけど、なんとかしてほしい。

父が**エンディングノート**を買ってきたと自慢していたので安心していたら、1年過ぎてもまったく書いていなかった。**聞くと「ちゃんと書く」と言い張るけど、書く気配も気力もない**。

介護サービスの相談をする高齢福祉課、年金、後期高齢者医療、税金…行政の中でも窓口が全部違う。例えば、家族が代行する手続きも委任状がいる・いらなど、対応がバラバラ。**1カ所でまとめて相談できる総合的な窓口、それも本人用・家族用を作ってほしい**。

How's View

AR50にとって初めて接する高齢者コミュニケーションの取り方が分からない

- ◆介護認定されれば、ケアマネージャーなど介護の専門家に相談もしやすくなるが、その手前の段階でも苦労している様子が明らかになった。
- ◆身体はまだ元気でも、記憶力・気力の衰え、今までの親と明らかに異なる高齢者特有の思考や行動にはとまどうばかり。
- ◆核家族社会で育ってきたAR50世代にとっては、初めて接する高齢者。年老いていくとはどういうことか、どういうコミュニケーションの取り方が効果的ななどを、介護認定前でも相談しやすい機関が求められる。



Yさん/53歳
実母83歳



Kさん/53歳
実父84歳 実母78歳



Nさん/53歳
実父79歳